

令和元年10月25日
国土交通省
大分川ダム工事事務所

「大分川ダム建設事業の進捗状況」のお知らせ

大分川ダムは、洪水調節、河川環境の保全、水道用水の供給を目的として、昭和62年度（1987年）に建設事業に着手し、このたび、ダム本体及びダム本体関連工事が完了します。

昨年及び今年の台風襲来においては治水効果を発現しました。

（現在のダム建設工事の進捗状況）

平成29年5月に本体盛立完了、平成29年10月に洪水吐コンクリート打設完了を経て、平成30年2月20日から試験湛水を開始しました。

平成30年6月11日より、大雨の際の洪水調節の機能はすでに発揮できる状態にあります。

試験湛水中の台風24号（H30.9.30）襲来の際には、洪水調節効果を発揮し、下流の河川水位（七瀬川胡麻鶴橋地点）を0.64m低減させる効果がありました。台風10号（R1.8.15）襲来の際には、0.44m低減させる効果がありました。（別紙参照）

その後、令和元年10月11日（金）から再度貯留開始し引き続き試験湛水実施中ですが、令和元年11月にダム本体工事及びダム本体関連工事が完成する予定です。

そのほか周辺の付け替え道路工事等については、引き続き令和2年3月を目標として完成予定となっております。

※ 11月24日（日）に完成式を開催する予定です。

式次第及び取材申込方法については、後日あらためて記者発表を行う予定です。

《問い合わせ先》

国土交通省 九州地方整備局 大分川ダム工事事務所

TEL：097-538-3391（代表） FAX：097-538-3397（代表）

副所長（技術） 池浦 光文 （内線：204）
調査設計課長 藤原 吉洋 （内線：351）

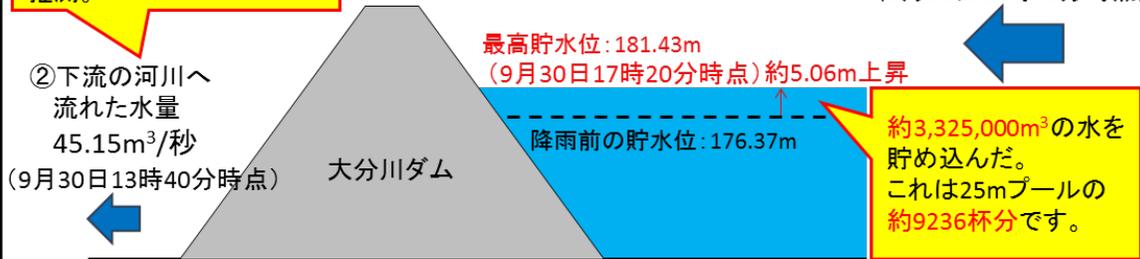
大分川水系大分川ダム試験湛水中の効果

平成30年台風24号(平成30年9月30日)

◆大分川ダムの状況

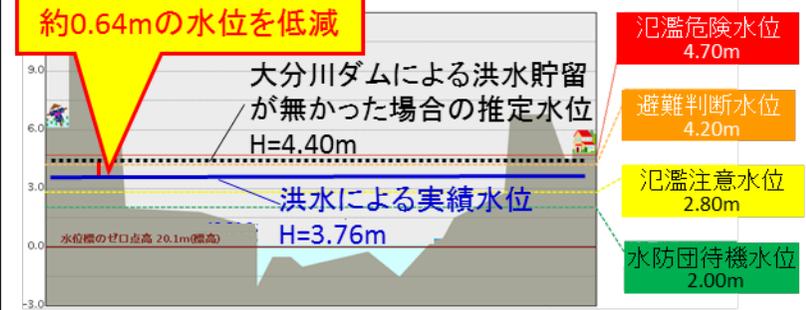
約242.2m³/秒(=①-②)
少なくなって、流れていたと推測。

②下流の河川へ
流れた水量
45.15m³/秒
(9月30日13時40分時点)



今市雨量観測所(累加雨量): 318mm(9/28 22時~9/30 16時まで)

【下流河川】七瀬川 胡麻鶴地点 (本川大分川合流点から6k上流付近)



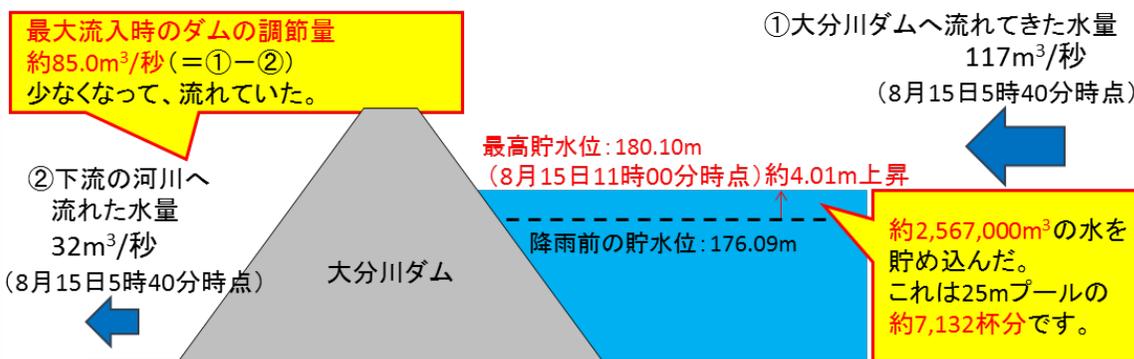
※本資料の数値は速報値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

令和元年台風10号(令和元年8月15日)

◆大分川ダムの状況

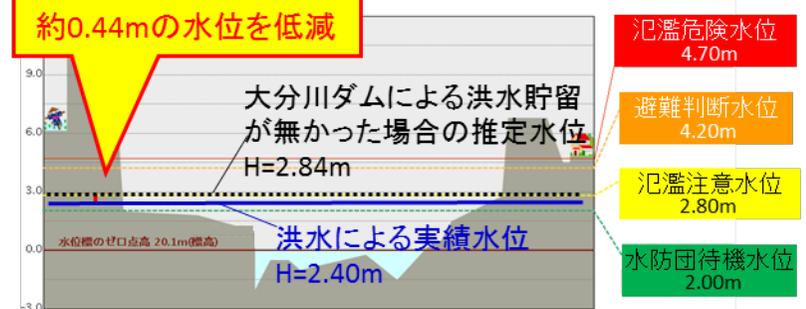
最大流入時のダムの調節量
約85.0m³/秒(=①-②)
少なくなって、流れていた。

②下流の河川へ
流れた水量
32m³/秒
(8月15日5時40分時点)



今市雨量観測所(累加雨量): 298mm(8/14 10時~8/15 18時まで)

【下流河川】七瀬川 胡麻鶴地点 (本川大分川合流点から6k上流付近)



※本資料の数値は速報値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

(大分川ダムの概要)

位置：大分市大字下原地先
目的：洪水調節、河川環境の保全、
水道用水の供給

ダムの諸元

- ・型式 ロックフィルダム
- ・堤高 91.6m
- ・堤頂長 496m
(洪水吐除くロック材天端400m)
- ・堤体積 387万m³
- ・総貯水容量 2400万m³
- ・有効貯水容量 2240万m³

